

[003] 九州大学低温センターだより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/14699>

出版情報：九州大学低温センターだより．3，2009-03．九州大学低温センター
バージョン：
権利関係：

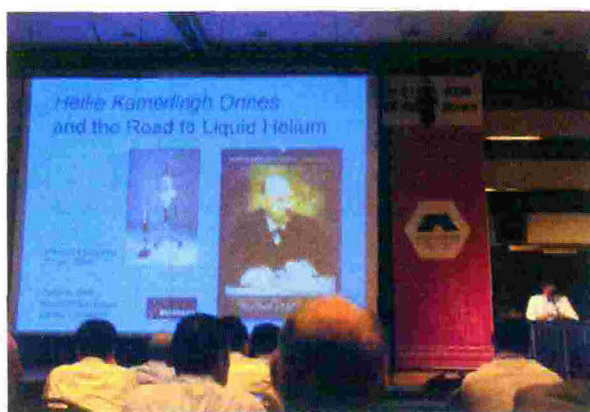
巻頭言

卒業論文仕上げのあわただしさも一段落している時期になっていると思いますが、研究室の学生諸君の中には、卒業論文の冒頭で、「オランダ・ライデン大学の物理学者カメルン・オネスは、1908年にヘリウムの液化に始めて成功し、1911年に水銀の電気抵抗が突然消失する超伝導現象を発見した、云々」から始めていることがよくあります。多くの学生諸君にとりまして、低温との関わりは一通過点での出来事になるかもしれませんが、インパクトのある経験として残しておいてほしいと常日頃から願っているところです。

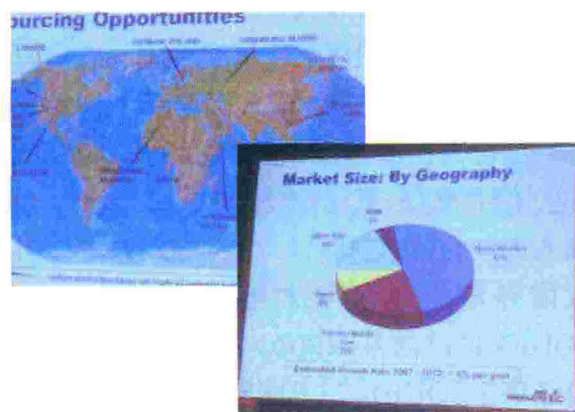
本年度は、このヘリウム液化から100年の節目の年となっており、関連分野ではそれぞれ記念のイベントなどが催されています。昨年の7月に韓国のソウルで開催されました第22回国際低温工学会議(ICEC22/ICMC2008)でも、100周年記念の特別プレナリーが設けられました。下の左の写真はオネスとヘリウム液化についての特別講演(Prof. Dirk van Delft, Leiden Univ.)の1コマです。その後、ヘリウム供給の現状と将来についてのレビューなど(右図)の講演(Prof. Hans Quack, TU Dresden)がありました。低温センターからも、伊都地区のヘリウム冷凍液化設備について、昨年度から進めています性能試験の結果をこの会議で報告しています。模擬熱負荷を接続して実施した冷凍能力試験の結果などについて各国の方々に興味を持っていただきました。その概要につきましては、本誌に投稿させていただきました。

伊都地区での寒剤供給業務を開始して1年余りになっています。利用者のみなさんには初期立ち上がりのご不便をおかけしましたが、その後、体制を整えることができたのではないかと考えております。一方で、箱崎地区では、従来通りに、分離キャンパスの利用者の方々にも寒剤供給を実施しておりますが、ヘリウム液化設備の整備等に関連しまして供給業務に支障が出てこないように体制の強化を図っているところです。これからも、両地区センター協力して寒剤供給を進めてまいります。よろしくご支援をお願いいたします。

低温センター長 船木 和夫



特別プレナリー「オネスとヘリウム液化への路」



ヘリウムの今後の供給や使用予測

(いずれも、ICEC22/ICMC2008より)